

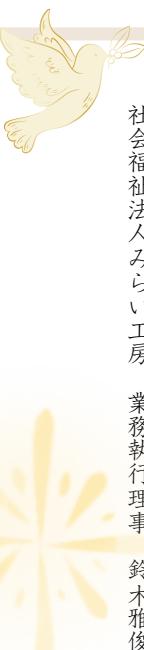
利用者ファーストを実践する スタッフは法人の宝

二〇十一年六月に運営を開始したみらい工房も十五周年の節目も目前です。この間、多くの方に支えられながら運営できしたこと、心より感謝申し上げます。まさに活動の十三年・みらい工房が現在のような事業形態になるとは、誰も想像できなかつたことだと思います。

無論私もそうです。障害者福祉の現状をみると、いわゆる規制緩和により様々な法人格の事業所が参入しています。“社会福祉事業は社会福祉法人”という既存制度を緩和することによって、多様な法人が事業に参入できるようになりました。その目的は措置制度と違い、契約制度による法人間の競争原理を働かせ、結果、福祉事業全体のサービスの質向上を図る為の制度変更であつた、と私は認識しています。しかし、実情はどうかといふと報道等でご存じの通り、営利目的の事業所が増え、利用者本位とは程遠い事業所が散見されています。とはいえる、社会福祉法人の存在が薄くなつてきていた感は否めないというのも、正直などころです。

今後、どのような形で社会福祉法人の役割を担つていか?作つていくか?が問われています。私の思う役割は、やはり課題になつている重度利用者の受け入れを積極的に行つていくことです。一生懸命頑張っている株式会社やNPO法人もありますが、様々な情報媒体を通して聞こえるのは、適切な言葉ではないかもしませんが、利用者の選り好みをしている事業所、リスクの低い利用者しか受け入れない、受け入れられない事業所が多いという声です。地域の状況を鑑み、課題をしつかりと明確にし、どの福祉サービスの需要が高いかをリサーチし、スタッフと共にその課題解決に向けて地道に、対応していくのが本来の姿です。みらい工房はその使命をしつかりと認識し、健全な法人運営を今後もしていきたいと思います。

NPO法人としてスタートしましたが、徐々に事業規模も拡大し、より公益性を高めようと令和元年より社会福祉法人に移行しました。多くのスタッフに支えられるながら、今の法人があること、改めて感謝しています。スタッフは私の大切な宝物です。利用者ファーストであるからこそ、職員ファーストとの間を模索しながら、みらい工房に関わる全ての方々が、これからも安心して過ごせる、そして仕事ができる環境を作つていただきたいと思ひます。皆様には、温かい視点で見守つていただきたいと、今後ともよろしくお願ひいたします。



社会福祉法人みらい工房 業務執行理事 鈴木雅俊

編集後記に代えて

今回は若手が活躍しやすい職場環境づくりや、ICT導入による業務の効率化に奮闘している、人材確保委員長越川さんにコメントを頂きました。

広報委員会一同

人材確保委員会ではその名の通りリクルート強化により法人の発展を支えていくことが主なミッションです。そのため人材育成や職場環境の改善にも取り組んでいます。就活中の皆さんにみらい工房の魅力、福祉のシゴトの格好良さを発信すべく、今回は広報委員会

とのコラボ企画として特集に参加させていただきました。皆さんからのご応募・お問い合わせをお待ちしています！

人材確保委員長
越川麻紀



利用者と共に時を重ね成長するみらい工房

みらい工房は創立十三年を経過し、十五周年も見えてきました。そんなに経つたかなという気持ちが正直などころではありますが、私自身が担当していた放課後等デイサービスの小学一年生であつた利用者様達が、生活介護事業所の仲間入りをして、しつかりと作業活動をしている姿を見ると、時の流れを実感いたします。そして立派に成長していることを嬉しく思います。開設初日は、契約利用者様六名、職員七名でスタートしたみらい工房ですが、現在では契約利用者様約四〇〇名（相談利用者様含む）、職員約一六〇名にまで増えてきております。これは利用者様や保護者様、地域の方のご協力もあり、迎えられたものと思います。関係する皆様に深く御礼申し上げます。今後においても、みらい工房の理念のもと、地域において関係する皆様の“みらい”を共に創造できるよう精進して参りますので、今後ともご支援を賜りまますようよろしくお願い申し上げます。

さて、今号の広報誌では、誠に恐縮ではありますが、職員に着目した仕上がりとなつております。施設運営をするあたり、職員は大事な宝物であり、創立初期に迎えた新卒学生の職員から最新の職員までインタビュー形式で紹介させて頂いております。

昨今では福祉業界全体が人材不足の傾向にあり、福祉就職フェアなどの学生さん向けの説明会に参加しても、志望学生数の少なさを痛感しております。私自身が参加した頃（二十年以上前ですが）は、どちらの事業所ブースも列をなしておらず、就職できるだらうかと不安になる程でした。採用方法も多様化しており、コロナ騒動で拍車がかかったのが、デジタル化です。履歴書はパソコンで可能とし、オンラインの説明会や面接を実施する等とみらい工房でも時代の波に乗り遅れないようICT化を取り入れています。私自身が使いこなすのに時間がかかるてしまうこともある為、たくさんの若い職員達の力を借りながら、良き人材の確保に努めて参ります。

最後になりますが、体調を崩しやすい時期になります。皆様くれぐれもご健康にはご留意頂き、お過ごしください。

街の中灯された明かりにみんなが集う・・・

12/2 みらい工房カフェ“Lamp”を県庁前にOPENしました

人が不安や迷い（暗闇）の只中にいるとき、

遠くに灯りが見えるときと「頼り」にするはず

街灯の下を1つずつ進み、やがて幸せにたどり着く人がいるかもしれない

「灯」は、人が集い、何かを見つけるシンボルとなる

コンセプトの通り、この度開設するカフェが

「人が集い、交流し、互いの情報交換も含め、和やかに過ごすことが出来る場」となるように『Lamp』という店名を決めました。

この場を通して、地域の方々の暮らしに「潤い」をもたらすことが出来るようにと考えています。

Lamp店長/支援員 西山克也

〒260-0855

千葉市中央区市場町9-21 TKマンション1F





みらい工房おおぞら所属入社2年目の支援員
村越さんが今、感じること

わたしにとっての仕事は自分を成長させるもの。
仕事での学びが私生活にも生きていると感じます。



わたしが大切にしていることは、利用者様の過ごす環境を綺麗に保つこと。気持ち良く過ごして頂けるよう心掛けています。



将来は可愛いおばあちゃんになりたいです！



1年後のわたしは、利用者様をもっとよく理解し、次に何が起こるか予見して行動を起こせるようになりたいです。日々の業務に追われるのではなく、自分で管理し先回り出来ることを目指していきます。

今年の目標は・・畑の虫に驚かない！！

出勤～朝礼

8:30

笑顔を心掛け出勤しています。本日の職員の動きや、利用者様の状況は予定表をチェックし頭に入れておきます。

活動支援

10:30

活動は、固定せずにその日の利用者様の様子にあったものにご参加いただきます。この日は健康チェックと着替えを済ませ、畑に行きました！！まだまだ虫に驚いていますが、虫とも仲良く(?)なれるよう頑張ります！

昼食支援

12:00

昼食場面の支援では特に、利用者様の口腔ケアを丁寧に行うよう心掛けています。奥歯のブラッシングは、嫌がる利用者様もいるので、ゆっくり10秒数えあとどのくらい歯磨きをするのか見通しをお伝えし、落ち着いて歯みがきができるよう支援しています！

休憩

12:30

私は同じ休憩時間の職員とゲームをしてリフレッシュしています♪利用者様支援に影響がないように、休憩スケジュールが組まれているので、安心して休むことができます。

業務

15:00

直接介助の他にも記録や活動準備等の業務があります。この日は私が起案者となって行なイベントの企画書を作成しました。職員が2人ペアになってイベントを考えるので、相談しながらスムーズに進めることができました。食事を楽しみにされている利用者様が多いので、特に食事メニューには力を入れています！季節やコンセプトにあった食事を考えています。

送迎～退勤

17:30

利用者様を安全に、各ご家庭にお送りします。その日の気になった事、体調やご様子の変化等、しっかりと保護者様へ引き継いでいきます。

きらきらスタッフ特集

様々な働き方で活躍する従業員にみらい工房の魅力をインタビュー。今回は仕事にプライベートに充実した生活を送るスタッフにお話を伺いました。



人材確保委員×
広報委員
コラボ企画



古川恵理
総務/支援員

支援の現場から総務へキャリアチェンジ

Q. 部署変更の経緯を伺えますか

A. 持病により手術をした休職明け、今後以前のように働けるか不安を抱いていた時、理事長から総務業務の打診をいただきました。退職も考えていた中、まだ大好きなみらい工房で働けると思い嬉しかったです。

Q. 現職のやりがいは何でしょう

A. 法人の一員として組織運営に大きく関わっている点です。国保連請求に関する面は重圧も大きいのですが、私を信頼して業務を任せてくださることにやりがいを感じます。

Q. 働く上で大切にしていることは何でしょう

A. いろいろあるのですが、一番は家庭とのバランスは忘れないように意識しています。時短も終わりフル勤務に戻りましたが、同じ部署の皆様にはいろいろとご配慮いただくことが多く、いつも感謝しております。

Q. ズバリ、みらい工房の魅力は何でしょう

A. 私は新卒からの入社で、勤続13年目になります。新しい事業所や職員も増えていくところをずっと見てきましたが、そのおかげでみらい工房自体が確実にパワーアップしていると年々感じているところです。

最年少で係長へ昇進した働くママ

Q. 責任ある役職と家庭の両立をこなす工夫は

A. 会議や保護者様とのお約束があっても、子どもの急な体調不良等でお休みを頂くことがあるので、周りの方々にたくさんフォローして頂いています。当然ではありますが、突然の早退や欠勤に備えて、なるべく早めに業務を進めるよう心掛けています。役職者として職場復帰する際も家族の協力や理解を仰ぎ、育児や家事分担等も都度話し合っています。

Q. 事業所で力を入れていることは

A. 活動参加が難しい利用者様に向けて、手先や認知の機能訓練やマッサージ等の導入を検討しています。

職員の知識も広げ、個々に合わせた活動を考えていきたいと考えています。

Q. みらい工房の魅力は

A. 若手の頃は、仕事終わりに同僚たちと食事に行くことも多く、プライベートでもたくさん同じ時間を過ごしていました。職員同士仲が良いことはチームとして動いていく上で良い影響になると思っています。開所当時からの和やかな雰囲気は、今後も残していくべきと思っています。

Q. 若手職員、就活生に向けて一言ください

A. 私は大学在学中にみらい工房でアルバイトを始め、そのまま採用試験を受けて入社しました。福祉経験はもちろんですが、社会人として何も分からず、自分がやりたいと思うことは周りの職員も協力して下さり、周囲の環境にとても恵まれていたと思います。自分の意見を発信出来ること、理解してもらえる環境が当時の私には心強かったです。職員間で気持ちを共有出来ることは働く上で大切なことであると思っています。



桐澤純香
だいち/係長

チャレンジド雇用枠で法人を支えています

Q. みらい工房に入社して何年になりますか

A. 2015年の11月からみらい工房で働いているので丸9年が経ちました。

Q. 主な業務を教えてください

A. みらい工房本体の本館・新館のお掃除・お昼の食事で使用した食器の洗い物やトイレ掃除・駐車場の掃き掃除や玄関の清掃などすみずみまでお掃除してます！！

Q. 働いていてよかったですと思うことは何ですか

A. 利用者さんや職員さん、みんながキレイな場所で過ごせるお手伝いができることが嬉しいです。

Q. 将来の夢を教えてください

A. 日々、毎日を楽しく過ごすことができればと思っています。



秦ゆかり
つむぎ/支援員

他社を経験しみらい工房に再就職しました

Q. みらい工房の魅力は何でしょう

A. 尊敬している先輩方の下で働きたいとの思いが強く、戻ってきました！支援面では職員と利用者様1人1人に寄り添って信頼関係を作っているところが魅力です。また、福利厚生では、スポーツにも熱心に取り組んでおり、バレーボールや野球と様々な楽しい行事がありいいなと思います。

Q. 職場の雰囲気はいかがですか

A. たんぽぽルームでは、管理者1名、保育士2名、児童指導員2名で支援しており、支援方法や改善点をお互いに伝えやすい環境です。支援員が楽しみながら子供たちにも楽しんで頂くをモットーに常に笑顔がある職場だと思っています。

Q. 現在の担当業務を教えてください。また、どんなことを目標に掲げていますか

A. 利用者様の活動の充実や、排せつ介助等の支援業務の他、利用曜日の調整等の業務も行っています。今後はサービス管理責任者の資格を取得しその役割を頂けたら、子供たちの笑顔が溢れる場所、職員も支援のしやすい環境作り、ここに預けて本当に良かったと感動を与えられる事業所を作っていくたいと思います！



山田諄哉
たんぽぽルーム
/保育士



指定生活介護事業
地域生活支援センター

おおきなWa入社前に勤めていた事業所が閉所となり、数名の利用者様の利用先を探していておおきなWaを知りました。なかなか利用先の決まらなかった利用者様を受け入れてくれ、事業所も職員も明るく働きやすい環境だと思い利用者様と一緒に私も入社を決めました。利用者様の笑顔や成長が私の原動力になっています。利用者様の人生の一部に関わることに幸せを感じます。これから宜しくお願い致します！ 支援員/稻嶺 須賀子

おおきなWaで栽培しているミニトマトや小松菜、シソのお野菜がとても美味しく、収穫した野菜を毎回楽しみにしています。何より、息子が笑顔で帰ってきたのが、とても嬉しく安心して迎えることがでます。手がかかる息子ですが、おおきなWaの職員の皆さん今後ともよろしくお願ひいたします。

2024年4月社会福祉法人みらい工房
九州・沖縄エリア初の事業所が開設されました

おおきなWa

保護者便り

息子の大生は令和6年4月から、社会福祉法人みらい

工房おおきなWaを利用しています。以前、約8年間利

用していた事業所が突然の閉鎖となり、不安の中、短期間に事業所を数か所、見学・体験利用しました。ですが、息子は話すことができないので気持ちを表情やジェスチャーで感じ取るしかありません。また、気持ちがうまく伝わらないときには他害行動があるため、なかなか受け入れてくださる事業所が見つからず、ほぼ半ば諦めかけていた時に新しく立ち上げる事業所があるとの情報を聞き、おおきなWaを見学しました。施設内の環境や雰囲気も良く、おおきなWaを利用したいと強く思いましたが、事業所と自宅までの距離が遠く、息子が送迎車でおとなしく通うことができるのか…とても心配でした。その旨を職員さんに相談すると、とても親身になつて相談に乗つてもらい、私の不安な気持ちが軽くなり、おおきなWaの利用を決めることができました。利用し始めたからも、おおきなWaの職員の皆さんには、相談事を聞いていただき機会もあり、息子だけではなく私たち家族も助けて貰つており感謝の気持ちでいっぱいです。時折不穏になりパニックになることがある息子の気持ちに寄り添つて柔軟に支援をしてくださるおかげで、息子も安心して過ごせていると思います。以前は拒否して取り組む事が出来なかつた手作業なども、最近少しづつではありますが取り組めるようになり、家族みんな驚きと感動でいっぱいです。これから自分で出来ることが少しづつ増えていくことが家族の願い・目標でもあるので、職員の皆さんには毎日感謝しております。事業所での息子の様子をインスタグラムや連絡ツールなどで共有していただけるので、拝見するのを楽しみにしています。また、おおきなWaで栽培しているミニトマトや小松菜、シソのお野菜がとても美味しく、収穫した野菜を毎回楽しんでいます。何より、息子が笑顔で帰ってきたのが、とても嬉しく安心して迎えることがでます。手がかかる息子ですが、おおきなWaの職員の皆さん今後ともよろしくお願ひいたします。

金城 幸代様



おおきなWa入社前に勤めていた事業所が閉所となり、数名の利用者様の利用先を探していておおきなWaを知りました。なかなか利用先の決まらなかった利用者様を受け入れてくれ、事業所も職員も明るく働きやすい環境だと思い利用者様と一緒に私も入社を決めました。利用者様の笑顔や成長が私の原動力になっています。利用者様の人生の一部に関わることに幸せを感じます。これから宜しくお願い致します！ 支援員/稻嶺 須賀子

前職ではオフィスワークをしてきましたが、娘の医療ケアを自宅でしているうちに、福祉に強く興味を持ち、仕事を通してさらに視野を広げたくおおきなWa入社を決めました。パート勤務の時間はあっという間ですが、利用者様一人一人の人格を尊重し、今日も楽しく充実した1日だったと思えるような支援を目指して日々取り組んでいます！！週末は砂浜で子供とまつりす過ごしています。支援員/中田 笑奈

見学に訪れた際、施設長より沖縄事業にかける想いを聞きおおきなWa入社を決めました。私は直感を大切にしていますが、58号線沿いに見覚えのある建物があり気になっていたところ転職サイトより連絡があり、自分のイメージにあった建物がおおきなWaだと知りご縁を感じ名護からの転居・転職を決意する後押しとなりました。趣味はサッカー観戦です！これから宜しくお願い致します。 支援員/吳屋 信介

好きなことその先の楽しみ、喜びを目指したい

＼ Please follow me ! ／



<https://okinawa.net>

〒901-2127

沖縄県浦添市屋富祖3丁目7-1

IRIS屋富祖ビル2階

TEL : 098-917-5835

(見学お問い合わせは→ゴヤンGO)

Mail:okinawa@mirai-kobo.or.jp

事業所DATA.

私たちの提供するサービスは生活介護ですが、介護やレクリエーション支援に限定したものではなく、サービス利用の当事者もそうでない方もお互いが助け合ってありのままに社会生活を送ること。その支援こそが役割だと提唱するのは、公益財団法人日本知的障害者福祉協会全国日中活動支援部会です。皆様はご存知でしたでしょうか。遡ること十余年、2013年の部会全国大会は新潟県で行われ、私もシンポジウム参加の機会に恵まれました。全国から集まつた数百名の参加者を前に、様々な好事例発表や著名人をゲストに呼んでの講演は福祉業界に入つて数年の私にはとても刺激的な内容でした。その中でも特に、元東レ代表取締役社長の佐々木常夫氏の講演は当事者の家族、または支援者、社会に出て間もない若手社員、いずれの視点からも共感のできる心に響く内容であったと記憶しています。講演を終えすぐに手にした佐々木氏著書『働く君に贈る25の言葉』には、とある僧侶の問い合わせに障がいがある方を雇用する企業の社長が答える一節があります。当事者の皆さんが障がいあっても尚、働く理由それは『人の役に立ち感謝される喜びは働くことでのみ得られる』どんな状況の人であっても、人の支えになることが生きる喜びである、と学んだできごとでした。だから、私たちの生活介護は『目の前のコトに仕える』これを前提に、多様化する個別ニーズに沿って活動を組み立てています。(勿論、生活に必要な排せつや歩行等の介助も含まれます) 30代も後半に差し掛かりましたが、あの頃描いていた自分に成っているか?確認の為にも今一度開いてみたい一冊。共に働く法人の若手社員にも是非、手に取って頂きたいです。

主任/吳屋 智美